

私は本をあまり読まない方だと自覚しています。と言うよりは苦手だと思っています。振り返ってみると、小学4年か5年の夏休みに読書感想文の宿題がありましたが、私は最初の数ページで飽きてしまい適当に感想文を書いたため怒られたことがありました。当時はなぜ数ページしか読んでいないことがバレたのだろうかと思っていましたが、そりゃ〜そうでしょうね。いやいや、最初から何を言っているのかですよ。

さて、そんな私が唯一読破することができた本を紹介いたします。

『ゲーテ格言集 (新潮文庫)』

この本は高校時代の国語の先生がおすすめしてくれた本で、「君たちは甘い。いろいろと考えてみるいい機会だから気が向いたら読んでみなさい。」と言われたことを覚えています。私にとっては妙に説得力のある先生だったため、すぐに買いに行ったことを思い出します。

この本は多くのことを私に教えてくれました。それでは、心に残った言葉をいくつか紹介させていただきます。

「人は努めている間は迷うものだ。」

「種をまくことは、取入れほど困難ではない。」

「経験したことは理解した、と思いこんでいる人がたくさんいる。」

→ 私は迷っているということは努力しているんだ、いま頑張れば（種をまけば）何かを得られるかもしれない、経験はしたけれど本当に理解しているのだろうかなどと自分なりに解釈しています。

みなさんはどのように感じましたか？感じ方はそれぞれだと思いますが、自分なりに解釈すると格言や哲学も身近に感じませんか？

最後に、私にとって最も影響を与え、支えてくれた言葉を紹介します。

「鉄の辛抱、石の忍耐」

→ 病院実習や卒論、国家試験などで辛かった時や挫折しそうになった時、新人看護師の頃に失敗した時など、多くの場面でこの言葉に救われていました。

みなさんにも自分にとっての大切な言葉や影響を与えてくれた言葉はあると思います。もし、気が向いたらこの本も読んでみてください。

【紹介された本】

『ゲーテ格言集』ゲーテ著 新潮文庫 1952.6

*現在当館に所蔵はありませんので、最寄りの公共図書館等をご利用下さい。